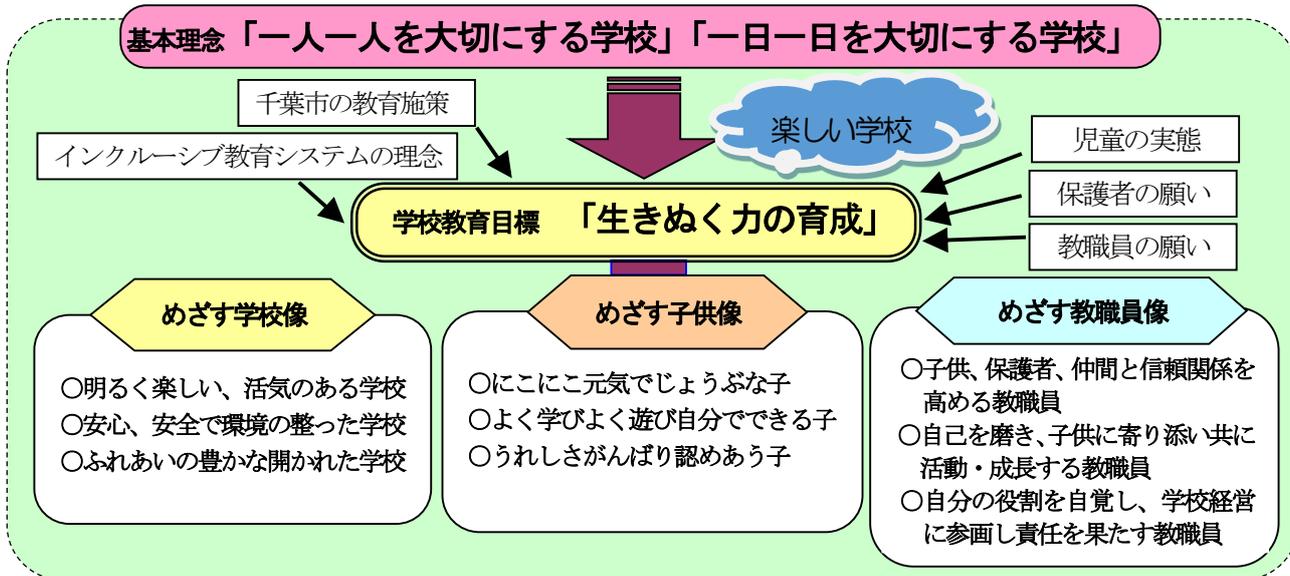


研究紀要

基本理念 「一人一人を大切にする学校」「一日一日を大切にする学校」



研究主題

知的障害教育における個に応じた自立活動の授業づくり

—実態把握からの課題設定と個に応じた指導を目指した授業改善—

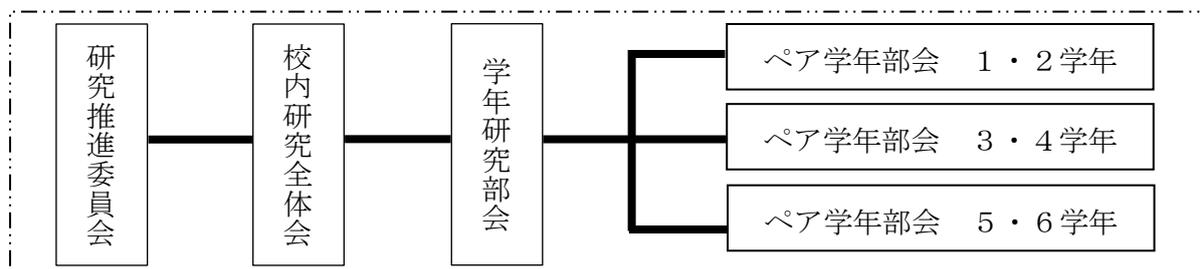
<設定の理由>

今年度は新たな研究主題を設定し、3年計画の1年目の年となる。本校の学校教育目標である「生きぬく力の育成」や「令和の日本型学校教育」で示された2020年代を通して目指すべき学校教育にある「個別最適な学び」を実現するための研究を行いたいと考えた。昨年度末に本校教員へ向けて行ったアンケートの中で「自立活動についての学びを深めたい」という希望が多く挙がった。また、本校における教育課程の見直しの中で、1週間に1時間と設定していた「自立活動」の授業を、今年度からは3週間に一度、1週間の帯で設定することになった。このことから、これまで行ってきた「自立活動」の授業を見直し、改善していくことでより効果的な指導・支援を行うことができるのではないかと考え、研究主題を「知的障害教育における個に応じた自立活動の授業づくり—実態把握からの課題設定と個に応じた指導を目指した授業改善—」と設定した。

「自立活動」の目標である、「障害のある児童が自立を目指し、障害による学習や生活上の困難を改善・克服していくこと」を目指し、1年目の今年度は児童の適切な実態把握、そして課題設定に重点を置き、授業改善を行い2年目へとつなげていきたい。

<研究体制>

研究組織は下図のとおりである。研究推進委員会は、校長、教頭、教務主任、研究部3名で構成する。部会は、学年ごとの学年研究部会と隣接する学年同士で組まれたペア学年部会で構成する。



<研究の方法>

- ① 自立活動校内基礎研修
 - ・ 校内の自立活動分掌の教員による自立活動の教育課程上の位置付けや目標、6区分27項目などの基本的な内容の理解を深める研修を行った。
- ② 事例児を挙げた流れ図の作成
 - ・ 各学年の自立活動を行うグループごとに事例児を1名挙げて流れ図を作成し、実態把握の方法について理解を深めた。
- ③ 目標設定シートと授業づくりシート
 - ・ 教員間で簡潔に実態把握と授業内容が共有できるように本校独自のシートを作成し、書き方の共通理解を図った。(図1・図2)
- ④ シートの作成と授業実践
 - ・ 各学年の自立活動を行うグループごとに事例児の目標設定シートとグループの授業づくりシートを作成した。(全22グループ)
 - ・ 各学年、作成したシートを基に授業実践を行い、その様子を映像で記録した。
- ⑤ ペア学年部会による授業検討と振り返り
 - ・ 作成した目標設定シートと授業づくりシートの検討をペア学年部会でした。
 - ・ 映像の記録を視聴した上で振り返りを行い、ペア学年部会で成果と反省について話し合いを行った。
- ⑥ 今年度の成果と反省と次年度の研究について
 - ・ ペア学年部会で話し合った成果と反省を校内研究全体会で共有した。
 - ・ 今年度の成果と反省を基に、次年度の研究についての方向性を定めた。

図1 目標設定シート

自立活動目標設定シート

	学年・学級	氏名				
	障害の種類・程度や状態					
実態把握	障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習などについての情報収集					
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション

↑ 文頭に良いところは○を課題点には△を記入。
 ↓ ※幾つかの指導目標の中で優先する目標として

長期指導目標	
--------	--

※指導目標を達成するために必要な項目の選定

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<input type="checkbox"/> 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。 <input type="checkbox"/> 病気の状態の理解と生活管理に関すること。 <input type="checkbox"/> 身体各部の状態の理解と養護に関すること。 <input type="checkbox"/> 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。 <input type="checkbox"/> 健康状態の維持・改善に関すること。	<input type="checkbox"/> 情緒の安定に関すること。 <input type="checkbox"/> 状況の理解と変化への対応に関すること。 <input type="checkbox"/> 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。	<input type="checkbox"/> 他者とのかかわりの基礎に関すること。 <input type="checkbox"/> 他者の意図や感情の理解に関すること。 <input type="checkbox"/> 自己の理解と行動の調整に関すること。 <input type="checkbox"/> 集団への参加の基礎に関すること。	<input type="checkbox"/> 保有用する感覚の活用に関すること。 <input type="checkbox"/> 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。 <input type="checkbox"/> 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動に関すること。 <input type="checkbox"/> 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。	<input type="checkbox"/> 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。 <input type="checkbox"/> 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関すること。 <input type="checkbox"/> 日常生活に必要な基本動作に関すること。 <input type="checkbox"/> 身体移動能力に関すること。	<input type="checkbox"/> コミュニケーションの基礎的能力に関すること。 <input type="checkbox"/> 言語の受容と表出に関すること。 <input type="checkbox"/> 言語の受容と表出に関すること。 <input type="checkbox"/> 言語の形成と活用に関すること。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。

※選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容	
具体的な指導場面 ○誰が ○いつ ○どこで	
短期指導目標	

図2 授業づくりシート

単元(題材)指導計画・記録 教科名 <u>自立活動</u> 学年 <u> </u>		○展開
単元名 「こんなときどうする?～遊びを通じた友達との関わり～」	単元の全体目標を記入する。	活動内容と教師の支援
単元の目標	児童の実態	
児童の個別目標	児童の授業に取り組む様子	
○活動内容と具体的な手立て		反省・課題等
活動内容 ・ 始めのあいさつ (A児)	児童の予想される言動 ・ 全体への言葉かけだけでは着席が難しく、立ち歩くことが予想される。 具体的な手立て ・ 児童が椅子に座っているイラストを提示し、個別に言葉かけを行う。 ・ 着席できたタイミングで大いに称賛し、望ましい行動に気付けるようにする。	該当児童 授業の流れに沿って、活動を記入する。 ・工夫することや手立ては、活動内容に対応させて記入する。 ・複数の事例児がいる場合には、個人の児童に向けた支援や手立ての後に「A児」というように示し、わかりやすくする。 児童の活動の様子を良かった点や改善点を交えながら具体的に記入する。 授業実施後に学年教職員で振り返りを行い、記入する。
授業展開の中で行う活動内容を取り上げ、その場面で予想される児童の姿と、その際行う具体的な手立てを記入する。		

<研究の流れと内容>

回数	時期	内容	体制
1	4月	今年度の研究の方向性について	全体会
2	5月	自立活動校内基礎研修「自立活動と6区分27項目の理解」	
3・4	6月	流れ図の作成「自立活動の実態把握の理解を深める」	
5	7月	目標設定シートと授業づくりシートの書き方について	
6		講師招聘による講話「自立活動の捉え方と授業づくりについて」	
7・8	9月	目標設定シートと授業づくりシートの作成	
9・10	10月	目標設定シートと授業づくりシートの検討	ペア学年部会
11・12	11月 12月	目標設定シートと授業づくりシートを踏まえた授業実践	学年部会
13	1月	講師招聘による授業実践と講話「授業実践の講評」	全体会
14		映像視聴による授業参観と実践の振り返り	ペア学年部会
15		今年度の成果と反省	全体会
16	2月	次年度の研究の方向性について	
17	3月	研究紀要の完成と次年度の研究について	

<講師招聘による講話と授業実践指導>【講師：千葉市立養護学校 教頭 高桑 幸代 先生】

【夏季全体研修講師講話より】（一部抜粋）

・障害によって感じる生きにくさを緩やかにする取組⇒自立活動

○自立活動における個別の中心課題～学校生活で一番その子が学ぶべきこと～

「これ」ができたら（改善されたら）、この子の生活（学習）がもっと楽に、
 もっと生活（学習）しやすくなるだろう。
 という視点でこの子の中心課題「これ」を考える。
中心課題を考え、子ども自身の目指す姿を明確にすることが大切

【冬季全体研修より～授業実践・講師講話～】

(1) 各学年自立活動の授業実践

・授業実践を記録した映像の視聴や参観を通して、講師より助言・指導をいただいた。

(2) 講師講話（一部抜粋）

・児童それぞれで感じ方が違う感覚についての捉え方を理解し、発達段階の土台となる感覚統合機能の視点に重きを置き、実態把握を行うことが大切である。（図3）

・指導の目標設定と評価は、児童の育つ姿（3年後の姿など）に見通しをもち、現時点での具体的な課題を見極める必要がある。

・自立活動の授業は、その瞬間の児童の実態を大切にしながら、柔軟な授業改善をその都度していく「OODA（ウーダ）ループ」の考え方で取り組むとよい。

・目標に対しての評価は授業の中だけで振り返るのではなく、生活の中でどのように生かすことができたかを評価できるとよりよい。

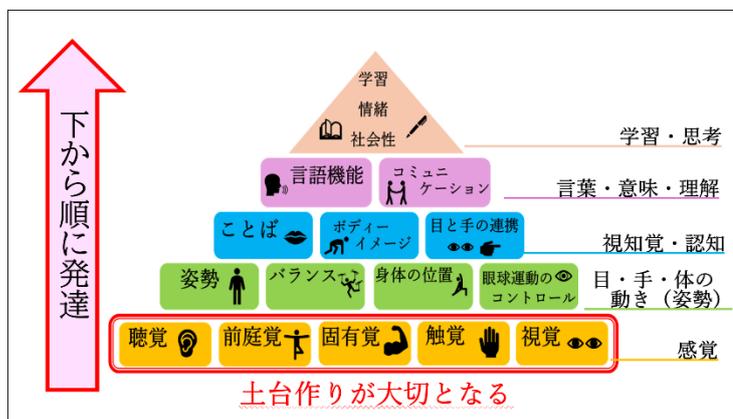


図3 感覚統合のピラミッド

<研究の成果と課題>

自立活動における実態把握と課題設定について

○成果

- ・流れ図を作成したことで、実態把握の仕方や捉え方について、考えを深めることができた。
- ・目標設定シートがあったことで、6区分に整理しながら事例児の実態を把握することができた。
- ・目標設定シートを活用したことで、事例児の課題を明確にし、具体的な指導場面を設定することができた。

▲課題

- ・自立活動のグループを担当する教員が目標設定シートを記入すると、「健康の保持」や「心理的な安定」などの実態を知らないことがあった。事例児のことをよく知る学級担任が目標設定シートの記入を行ったり、学年間で見合う時間があったりした方がより正確な実態把握ができたのではないかな。

個に応じた自立活動の授業づくりについて

○成果

- ・目標設定シートと授業づくりシートを順に作成したことで、事例児の課題に即した授業を行うことができた。
- ・課題を明確に把握して授業を行えたので、日常生活の中でも課題を意識して接する機会が増えた。

▲課題

- ・個に応じた自立活動の授業づくりを行う上で、事例児に焦点を当て過ぎてしまい、グループの良さを生かした授業づくりの意識が薄れてしまった傾向にあった。

次年度に向けて

- ・目標設定シートや授業づくりシートを活用したことで、事例児の実態把握や課題設定を細かく行うことができたので、今後もシートを活用しながら研究を進めていきたい。
- ・シートを作成する上で、ペア学年部会で見合う前に学年でも検討する時間を設定し、より正確な実態把握と課題設定を行えるようにしていく。
- ・今後も記録映像を用いた他の授業の参観を続け、指導法の共有や改善に生かしていく。
- ・次年度は学年を越えて、自立活動の似た課題をもつグループ同士での授業検討を行い、より専門的な指導法を深めていけるようにしたい。

<おわりに>

自立活動は、「特別支援学校学習指導要領・学習指導要領解説 自立活動編」として224ページにわたり詳細に記載されている。また、本校の学校教育目標である「生きぬく力の育成」にも不可欠である。研究1年目として、日々取り組んでいる自立活動を振り返ることができた。また、経験年数が少ない職員には、特別支援教育の根幹部分である自立活動の基礎を学ぶことで、本校の自立活動をより一層充実したものにしていく第一段階としてよい研究となった。3か年の研究を通して、個々の児童の特性を見立て、児童にとって個別最適な自立活動にできるよう、全職員で取り組みたい。

校長 渡邊 幸也

千葉市立第二養護学校

〒263-0021 千葉市稲毛区轟町 3-6-25

TEL 043-256-1950 FAX 043-284-4986

千葉市立第二養護学校 HP

<https://www.city.chiba.jp/school/jhs/you2/index.html>

目標設定シートの書式や授業づくりシートの実践例をHPに掲載しております。

